

図書だより

おおさかしりつやたちゅうがっこう
大阪市立矢田中学校
第2号
2026年発行

インドの数学者・図書館学者のランガナタン(1892～1972)という人が提唱した「図書館の五法則」には、「いずれの人にもその人の本を」という言葉があります。
本校図書室には8500冊以上の本があります。その本の中には、必ずあなたにぴったりの本があります。図書室を覗いてみてください。1冊の本との出会いがあなたの人生を変えるかもしれません。ほんとです。

『卵の緒』 瀬尾まい子 / 著。

第7回坊っちゃん文学大賞受賞作。表題作「卵の緒」と「7's blood」の2作を収録。

小学生の育生は母と2人暮らし。育生にはある疑問があります。それは、自分は母の実の子ではないのではないかと。母にこのことを尋ねても、いつもはぐらかされます。家族関係は悪くなく、母からは愛されている実感があるし、自分も母のことが好きなのですが、でも……。
この作品の続編が、『0冊目の本—今、ぼくの70ページ—』です。育生と母との関係は続編の中に端的に書かれていますが、続編を先に読んでという人も、「卵の緒」と「7's blood」を読んでみてください。大きな喪失を体験した後を力強く生きる人間の姿から、エネルギーをもらえます。

「7's blood」の七子と七生のその後も書いてくれないものでしょうか。

『勇者刑に処す 懲罰勇者9004隊刑務記録』 ロケット商会 / 著、めふいすと / イラスト。

普通のファンタジーで「勇者」といえば、仲間とともに魔王を倒すヒーローですが、この物語の勇者は、大罪を犯して刑を受けた者たちです。その刑が「勇者刑」です。

「勇者刑」を受けた者は、人類と「魔王現象」との戦いの最前線に立たされて、絶対生還不可能な作戦ばかりを課されます。戦死してもすぐに蘇生させられて、再び戦線に送り込まれます。

「蘇生できるのならいいじゃん」と思った人、甘い。蘇生のたびに記憶や人格が摩耗していつか、自分を保てなくなるのです。

凶悪で圧倒的な数の「異形」と戦い、しかし守るべき人類からは犯罪者として忌み嫌われる——、そんな主人公たちの絶望的な戦いを描いたのが本作です。

このように紹介すると暗い作品はちょっと……という人もいるかもしれませんが、この本はライトノベルらしく、魅力的なキャラクターが登場します。それらのキャラクターのやり取りはとても楽しくにぎやかです。といっても物語の世界観を壊すことはなく、むしろその明るさが作品の影をより濃くしています。I～IVまでを揃えています。

『かにみそ』 倉狩聡 / 著。

夏なので、ちょっと怖い話はどうでしょう。『かにみそ』は、第20回日本ホラー小説大賞優秀賞受賞作。泣けるホラーとして話題になった作品です。

20歳の「私」が、人間の言葉を喋る蟹と出会います。蟹と「私」には共に過ごすうちに、奇妙な友情が芽生えます。あるとき、「私」は事件を起こし、その事件の後始末を蟹に頼むのですが……。

蟹は不気味なはずなのだけれど、どこか憎めなくてチャームアップですらあります。この夏、いっふう変わったホラーが読みたいという人におすすめです。

『人間に向いてない』 黒澤いつみ / 著。

メフィスト賞受賞作。

若者の間に異形性変異症候群という奇病が流行している世界が舞台。自分の息子が芋虫になってしまった母親の視点で語られます。カフカの『変身』はある朝起きたら巨大な虫になっていた男の話ですが、こちらは母の視点で語られます。だから読んでみると、自分の家族が芋虫になったら今までどおり接することができるだろうかと一度は自問して、自分の心と向き合うことになります。それから途中の芋虫の描写に嫌悪感をかき立てられます。この作品は読むことにつらさを伴うかもしれませんが、でも後半、現代人の心の叫びとも言えるシーンは圧巻です。

解説を書いた書評家の東えりかさんは、「『覚悟して読みなさい。きっとあなたは三度嘔吐く。』とコピーを付けた。嘔吐しても読みたくて泣ける小説なのだ。」と評価しています。

嘔吐しながら泣いて読んでください。

～お願い～

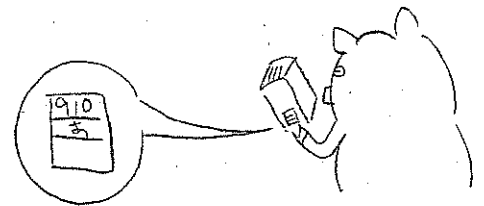
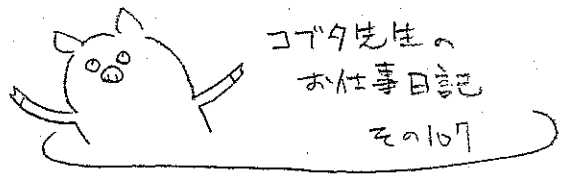
○図書室の本は、すべて「日本十進分類法(NDC)」に基づいて分類・整理されています。

本棚から取った本は、必ず元の本棚に戻してください。

○本を読む環境を提供したいので、図書室内では静かにしてください。

○図書室に入るときには、土足で出入り口のすのこを踏まないでください。また、脱いだ靴は靴箱に入れてください。

○図書室にある本は、一部の寄贈本を除いて、すべて税金で買った本です。紛失・破損することがないように、大切にしてください。



図書館の本には、日本十進分類法に基づいて分類がされています。



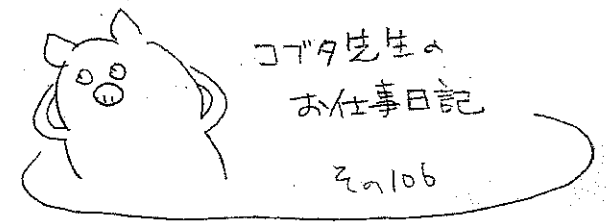
時々...



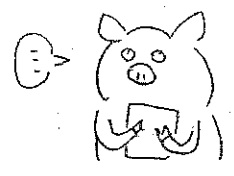
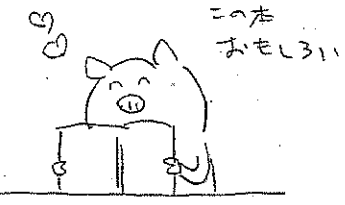
この本の分類、変えたほうがいいんじゃないかしら。



分類をどうするか決めるために、一通り目を通すこともあります。



本を読みながら考えます。



どうやってら皆にこの本の面白さが伝わるかしら。



図書館で伝えてみる。

